

南極地域観測統合推進本部長 荒木 萬寿夫 殿

日本学術会議会長代理 桑原 武夫

極地研究所(仮称)の設立について(申入)

標記のことについて、本会議第33回総会の議に基き、貴本部においてその実現方につき御措置下さるよう下記のとおり申入れます。

なお、このことについては、内閣総理大臣あて昭和35年5月18日付「南極地域観測事業について」(勧告)の補足として、別紙写のとおり重ねて勧告いたしましたから、申し添えます。

記

貴本部においては、昭和35年9月2日の閣議了解に基き、今後の南極地域観測の実施および観測によつて得られた資料の整理・保管・研究等のための措置について検討中と承知しているが本会議は、南極地域観測によつてこれまで得られ、また今後得られるこの種資料の整理・保管・研究等を行うために、極地研究所(仮称)を設置する必要があると考える。

よつて、これが実現のために適切な措置をとられたい。

別添資料 1. 極地研究所(仮称)案

2. 昭和35年5月18日付庶発第339号

注:別添資料は、5-21の別添資料と同一のものにつき添付を省略する。

内閣総理大臣 池田 勇人 殿

日本学術会議会長代理 桑原 武夫

アジア・アフリカ言語文化研究センターの設立について(勧告)

標記のことについて、本会議第33回総会の議に基き、下記のとおり勧告します。

記

変動しつつあるアジア・アフリカが世界の関心を集め、日本の現在および将来にとつて無数の重要問題をなげかけていることは周知の事実であり、アジア・アフリカ諸国との関係いかに、日本としての死活問題があるといつても過言ではない。アジア・アフリカに関する研究は国家的な急務であるが、その広大な諸分野の中でも、最も緊急を要するのは各種の言語の基本的な研究と修得である。人文・社会・自然科学のいずれの分野からみても、言語の問題は極めて重要かつ緊急であり、アジア・アフリカ諸国との間に各種の連絡、交流をおこなうために、言語の実用的な知識が特に要求されている。しかも言語はこれをその歴史的、文化的背景とともに総括的に研究する必要がある。

つては、政府において早急にアジア・アフリカ言語文化研究センターを設置されることを勧告する。

参 考

1. 名 称

アジア・アフリカ言語文化センター